

July 22, 1949

The China Issue

Citation:

"The China Issue", July 22, 1949, Wilson Center Digital Archive, National Archives and Records Administration, Record Group 242, National Archives Collection of Foreign Records Seized, 1941-, Records Seized by U.S. Military Forces in Korea, Shipping Advice 2006, Item 11/36. Obtained by Charles Kraus.

<https://wilson-center-digital-archive.dvincitest.com/document/121609>

Summary:

A secret North Korean intelligence file on developments in the Chinese Civil War.

Credits:

This document was made possible with support from MacArthur Foundation

Original Language:

Korean

Contents:

Original Scan

12237

秘

中國新聞

情報

部

임무성 (Seal) 문하과

No. 2-20
156
19 49년 7월 22일

博報

博報

一九四七年八月二十二日

中國國民黨中央軍口事資料集

北平解人民委員會

榮 岳 英

北平解人民委員會

徐州緩署 薛岳

第一緩署 區鴻恩 伯已 調任 豫軍 任 司令

十九集團軍 張雪舟

三軍 (劉湘) (川北)
五軍 (雷) (川北)
四軍 (王) (川北)
二軍 (李) (川北)

第三緩署 王輝武

二十集團軍 夏楚中

第三緩署 (馬治宇)

第八緩署 (夏成)

三三集團軍 (李德) (董)

五軍 (李) (豫北)
六軍 (李) (豫北)
七軍 (李) (豫北)
八軍 (李) (豫北)
九軍 (李) (豫北)

鄭州緩署 劉峙

北朝鮮人民委員會外務局

第一緩署 胡宗南

三三集團軍 (王仲廉)

三軍 (王) (豫北)
四軍 (王) (豫北)
五軍 (王) (豫北)

三三集團軍 (劉峙)

三三集團軍 (董) (董)

第四緩署 (劉峙)

六軍 (劉) (豫北)
七軍 (劉) (豫北)
八軍 (劉) (豫北)
九軍 (劉) (豫北)

第五緩署 (張震)

十軍 (張) (豫北)
十一軍 (張) (豫北)
十二軍 (張) (豫北)

膠州緩署 朱漢謀

川康緩署 邓錫侯

黔湘緩署 潘文華

十三軍 (潘) (豫北)
十四軍 (潘) (豫北)
十五軍 (潘) (豫北)

中國東北籍介石中將軍正視部隊指揮系統表 五五五九

主任 熊式輝

司令官 杜聿明

副司令官 孫渡

參謀長 鄭洞國

參謀長 梁華盛

19A 總司令

孫渡

60A 副總司令

梁華盛

210 參謀長

陳南又

100A 白肇年

93A 盧濬良

警 200 新澤滙

警 200 顧濤

警 180 許義濬

17A 石覺

40 駱振韻

80 史松泉

50 方定仁

北朝鮮人民委員會外務局

52A

20 趙世章

195 陳林達

160 李理

130 李理

90 趙新

新 5A

140 龍天武

新 300 李濤

207 羅又倫

新 300 李濤

新 300 李濤

50 潘裕崑

葉振宇

北朝鮮人民委員會

東北敵軍戰術序列表

九中本屯九夜之日

東北行營

東部保安司令長官部

第一緩堵區

第一集團軍總司令部

七二軍

九二師 (司令部) 司令部 本緩堵區外 榴連司令部 (司令部)

九三軍

九二師 司令部

九三師 司令部

獨立第一師 (司令部) 司令部

交通隊司令部 (司令部) 司令部

交通隊司令部 (司令部) 司令部

九二師 (司令部) 司令部

東北保安司令部

北平路綫司令部

奉天司令部

北朝鮮人民委員會外務局

東部保安司令部

第二緩堵區

十三軍

九四師 司令部

五三軍

一一六師 司令部

東北保安司令部

東北保安司令部

東北保安司令部

東北保安司令部

東北保安司令部

東北保安司令部

東北保安司令部

東北保安司令部

第三緩堵區

五三軍

二五師 司令部

六二軍

八一師 司令部

東北保安司令部

東北保安司令部

東北保安司令部

REPRODUCED FROM THE NATIONAL ARCHIVES

東北保安司令部
東北保安司令部
東北保安司令部

冀東縱隊

九五師
四三師

東北保安司令部

警二路四縱隊

北平路橋警備司令部

山海關警備司令部

總指揮部

第一軍

新三十八師

東北縱隊

新五師
新六師

特務團

獨立步兵師(即二師)

獨立工兵師

獨立工兵師

獨立工兵師

獨立工兵師

獨立工兵師

獨立工兵師

獨立工兵師

獨立工兵師

獨立工兵師

直轄部隊

大華兵總隊

第一大隊(表名不明)

(即旅隊)

第二大隊(表名不明)

第三大隊

第四大隊(表名不明)

第五大隊

第六大隊(表名不明)

第七大隊

第八大隊

第九大隊

第十大隊

第十一大隊

第十二大隊

第十三大隊

第十四大隊

第十五大隊

第十六大隊

第十七大隊

第十八大隊

第十九大隊

第二十大隊

北朝鮮人民委員會外務局

中央軍陸軍總司令部編制表

一九四九年九月廿五日

總司令

副總司令

副總司令

參謀長

副參謀長

辦公主任

第一署

初二處 (王副參謀長)

第二署

初二處

第三署

初二處

第四署

初二處

第五署

初二處

第六署

初二處

第七署

初二處

北朝鮮人民委員會外務局

總務處

經理處

軍械處

軍法處

軍醫處

工務處

通訊處

外事處

未設參謀長

情報部

秘

一九四九年八月

國社黨の由来

北朝鮮人民委員会

外務部高東溼部

北朝鮮人民委員会

國社黨の由來

一九三〇年春季、中國三農紅軍の出現、甚るるに、
 上海の大部分大學教授（張君勱、張東蓀）の官僚改革
 （滿御銘、徐夢岩）の中國共產黨の力量の増長點を調
 査するに同時、國社黨の統制の中心、及び發起の責任
 等を調査するに、國社主義の二層を、中國の行政統制
 外來科考文部申上り、中國の政治の方向を
 決するに、國社主義の四層、羅隆基の新政
 派の又甚るる梁實秋の諸君來、甚るる於政界の章士釗の
 吸收の現況、二層の最初の一定の者、徐君一、定能組織
 形式の現況、單只後の羅隆基、梁實秋、北平の自由評
 論の現況、一、現刊物を取扱はる、外人の自由評論派の
 早急の、馬來、張東蓀の一九三〇年上海の時事新
 報を主幹とし、國社主義の主張を、高揚せしむ、一、
 三年北平の教育勸告の現況、黨綱の修訂を、
 北平の二時張君勱の燕京大學の現況、兩人の商議を、
 北平の益世報主筆羅隆基の現況、兩生北平の發起を、
 組織の兩生組織雜誌の發起を、二、路辰対象を、兩張
 の學生の一部分、政界の現況、北平の總部を、設置す
 べし、天津、上海、武漢、蘇州、南京の各支部を、設立すべし、
 天津、上海、武漢、蘇州、南京の各支部を、設立すべし、
 生時、天津、上海、武漢、蘇州、南京の各支部を、設立すべし、
 一面、天津、上海、武漢、蘇州、南京の各支部を、設立すべし、
 北平の現況、民族本位の主義を、共產主義の、又對

北朝鮮人民委員會外務局

論の現況、一、現刊物を取扱はる、外人の自由評論派の
 早急の、馬來、張東蓀の一九三〇年上海の時事新
 報を主幹とし、國社主義の主張を、高揚せしむ、一、
 三年北平の教育勸告の現況、黨綱の修訂を、
 北平の二時張君勱の燕京大學の現況、兩人の商議を、
 北平の益世報主筆羅隆基の現況、兩生北平の發起を、
 組織の兩生組織雜誌の發起を、二、路辰対象を、兩張
 の學生の一部分、政界の現況、北平の總部を、設置す
 べし、天津、上海、武漢、蘇州、南京の各支部を、設立すべし、
 天津、上海、武漢、蘇州、南京の各支部を、設立すべし、
 生時、天津、上海、武漢、蘇州、南京の各支部を、設立すべし、
 一面、天津、上海、武漢、蘇州、南京の各支部を、設立すべし、
 北平の現況、民族本位の主義を、共產主義の、又對

此を提出せしむ。在り方面を以て當時蔣介石の改革の
 本質を以てしんんん。二は地権を分取せしむ。新
 民主政治の口号を提出せしむ。該黨幹部を甲乙の輩を以て
 宣言の、中国の現在を以て改革の、性質論を以て国民党の
 腐敗を以て、共産党の悪化を以て、青年党の頑固を以て、行動
 論を以て国民党の官僚化を以て、共産党の土匪化を以て、青年
 党の學究化を以て、主義論を以て、三民主義の混同を以て
 共産主義の激進を以て、國家主義の首武を以て、時代論を以て
 国民党の前期革命の、共産黨の混乱時代の犠牲者として
 青年党の過渡時代の附原物の、此の吃を以て。
 九八以後、二は當時環境の適應を以て、一般人の口吻を以て
 別が為しの、此を以て流動内容を以て、増加を以て、抗日救国の

北朝鮮人民委員會外務局

旗幟を以て、改組の外支改革を以て、積極的を以て
 救國運動を提唱せしむ。此の吃を以て、大部分を以て、本身の
 要求の反映を以て、同時の、二地位を以て、此を以て、
 此の吃を以て、改組の参加を以て、一手段を以て、此を以て、
 是れを以て、進歩的作用を以て、引起せしむ。一部分を以て、青年學生の
 好評を以て、同時の、卒業後の出路を以て、圖謀を以て、
 此の吃を以て、一部分を以て、青年階級の、一三八派派の
 争議を以て、此の吃を以て、救工を以て、華北の、激進を以て、
 是れを以て、愛国青年を以て、逮捕せしむ。張君勵を以て、党を以て、
 此の吃を以て、反共易知を以て、此の吃を以て、能るを以て、羅隆
 基、湯安秋、張東謙、徐溥霖を以て、相議を以て、党を以て、
 函生記、臨臨、代表大會を以て、存存を以て、正式を以て、國家社会党を

之云の主張は、和平手段による経済的改良を前提とし、暴
 力手段による徹底の組織革命を第一の目的とする。

三 国民党の組織
 国民党の最新方針機関の全国代表大会の閉幕後、中央總務
 委員会と早く国民党の組織を整理し、中央糾察委員会を設
 け、国民党の監察機関を設け、国民党の中央總務、支部、分
 部、支部の各組織を、中央總務委員会に規定の化し、七
 人は早く一人一人の組織を、候補は三人乃至九人の組織
 委員会を、總秘書長を首領とする。この委員会は、財政、組織
 宣伝、地方の五部を設け、毎部の正副長一人を、平
 明、渡衛田を、早くの社会人として連絡し、此の中心機関に
 類似する。

北朝鮮人民委員會外務局

過去該党の中央組織の總務委員会に張元勳、張東孫、
 陸鼎模、羅文幹、羅隆基、潘希來、湯翰銘、盧博昌等八
 人が總務秘書長張元勳、組織部長張元勳、宣傳部長張元勳、
 財政部長張元勳、文書部長張元勳、總務部長張元勳、其
 他に湯翰銘、徐金勉、潘光迪、潘光迪、胡石春、王有稿、徐
 海霖、蔣白田、江偉、章士釗等。是れ該党の重要分子
 である。彼の張東孫、羅隆基、湯翰銘等、院の該党を
 脱離し、湯翰銘、潘希來、陸鼎模、梁秋等、先後に
 朝鮮に投降し、羅文幹、胡石春、北に、江偉、章士釗等
 在該党を在逃し、張元勳、潘光迪、民族同盟会、同盟時、表
 上の、張元勳、被擧げ、此の中心は、(国民党)提出し、
 現在之組織は、この重なる解決を要する。この中心は、(国民党)

惟孔氏之地位 言其的的孔氏也

抗敵前線 與 臨時之 黨員 六百名 敗之 北平之 百餘人
香港之 五千人 南京 上海之 七千人 武漢之 一二十名 天津之
五千人 山東之 該黨之 支部 亦多 抗敵初期 百餘
人之 孔氏之 後 孔氏 亦 發展 停止 孔氏之 現 抗 重慶 尚
家 若 四 十 四 多 之 總 部 設 置 於 此 西 南 各 黨 之 司 署 該 黨
之 事 業 概 與 之 孔 氏 其 決 定 之 成 人 乃 是 大 體 之 官 僚 政 府
各 派 統 統 進 步 有 效 據 著 上 層 分 子 之 結 果 也

過去因孔氏之內部之兩派之別 一為張君勱派 一為羅
隆基 梁實秋派 張派之 陸鼎揚 歐陽 學生之 孫斯
鳴 馮 向 劉 致 遠 孫 聖 夫 等 以 此 四 離 梁 派 之 紀 之 動 其 中
孔氏 兩派之 關係 甚 烈 孔氏 派 是 恒 常 之 學生 之 派 也

北朝鮮人民委員會外務局

梁 羅 之 派 擊 孔 氏 之 梁 羅 之 派 擊 孔 氏 之 表 示 孔 氏 時 已
及 擊 擊 之 實 行 孔 氏 張 君 勱 之 王 派 梁 實 秋 先生 之 派 也 一 公
南 善 信 之 表 表 孔 氏 後 梁 羅 之 派 對 於 孔 氏 之 派 也 一 公
孔氏 因 孔 氏 退 黨 之 要 求 孔 氏 之 派 也 一 公

該黨之 機關 係 在 南 生 之 派 也 一 公 最近 孔 氏
在 北 平 派 之 一 派 改 者 孔 氏 之 派 也 一 公 派 派 改 政 策 之 修 改
之 派 也 一 公 派 派 改 政 策 之 修 改 之 派 也 一 公

四、因孔氏之政治活動

因孔氏之 一九三三年 的 能 成 能 以 後 二 是 是 者 時 一 般 人 介
愛 國 心 理 之 青 年 學 生 之 派 也 一 公 派 派 改 政 策 之 修 改 之 派 也 一 公
之 派 也 一 公 派 派 改 政 策 之 修 改 之 派 也 一 公 派 派 改 政 策 之 修 改 之 派 也 一 公
他 一 方 面 之 派 也 一 公 派 派 改 政 策 之 修 改 之 派 也 一 公 派 派 改 政 策 之 修 改 之 派 也 一 公

平和なり。休養の必要あり。有利のあり。戦争は主
 張の矛盾あり。和平を主張する者も、和平を主張する者も、及
 者此の間にあり。和平を主張する者も、和平を主張する者も、及
 戦争の和平を同一の連続の間にあり。世上の戦争は、
 吳法其の如く、任精衛の進出以後、国家社会党の一部分領袖
 人物の漸次、張湯蘇銘等は人物の上海の国家社会党
 政体委員合名義を組織する。任精衛を擁護し
 是殺敵の計あり。重慶の国民党の召集の党大会上の
 某人の演説、湯二及張湯蘇銘等の取柄の如く、張湯蘇銘等
 二の張湯蘇銘等の取柄の如く、五里半の如く、出ると
 其党籍を取柄の如く

北朝鮮人民委員會外務局

党の利用を為すの、二共産党を及対あり。張君一節は、
 七有一九三八年青年、毛沢東先生の如く、八の南書信を、
 八路軍の任命の指揮を完全の計、蔣介石の如く交付あり
 特選の取柄の如く、主張の如く、此の上主義の信仰あり
 取柄の如く、及共産分子を融合あり。八路軍の欺瞞
 此を、毛沢東の如く、自身の如く、毛沢東の如く、毛沢東の如く
 の名を以て、実力を補充あり。其罪惡は、毛沢東の如く、及通者あり
 数倍以上のあり。毛沢東の如く、国民運動の擁護あり。国家
 統一の如く、毛沢東の如く、毛沢東の如く、毛沢東の如く
 外交上の如く、毛沢東の如く、極力毛沢東の如く、毛沢東の如く
 の技術的發展を、張湯蘇銘等の訓練を、嚴格の如く、毛沢東の如く
 の如く、毛沢東の如く、毛沢東の如く、毛沢東の如く、毛沢東の如く

清報部

(印)

一九四七年八月九日

東北戰況

北朝鮮人民委員會外事局

東亞部

北朝鮮人民委員會外事局

REPRODUCED AT THE NATIONAL ARCHIVES

敵軍官俘虜一覽表

番	職別	姓	名	數	字	備	考
三軍八師	師長	陳	南文	一		敵俘虜計合計是十	
三軍九師	副師長	鄧	麟	一		此師以兵力可也	
三軍二師	副師長	陳	南文	一			
三軍二師	校以下官	兵	官	四			
三軍二師	校以下官	兵	官	五			
合計				五			

正規軍校以上擊滅一覽表

七軍八師	一	新軍新三師	一	七軍直轄	破散	數	字
七軍九師	一	新三師	一	別一連			
合計							

七軍軍人民委員會外務局

合計	四	合計	四	合計	八
----	---	----	---	----	---

敵滅北地方部隊之總數在之

三軍三師、暫三師、獨三師、偽八軍八團、保三團
 保八團、保七團、保七團、昌黎保安團 合計人數數二六七〇名

我軍收復以敵引占領北縣城一覽表

日	我軍收復縣城名	敵軍佔領北縣城	日	我軍收復縣城名	敵軍佔領北縣城
雙	山	一	黎	樹	一
公	五	一	通	化	一
通	一	一	通	一	一

番	總	主管	原存數	消耗數	現存數
新 一軍	軍部	孫立人			
	新八師	李漢			
	新十師	潘朔端	28,000	5,000	23,000
新 二軍	軍部	廖耀湘			
	新六師	李天德			
	新七師	羅又倫	32,000	7,000	25,000
七 軍	軍部	陳仁			
	八七師	黃天			
	八八師	韓增棟			
五 軍	軍部	范			
	九八師	范	30,000	6,500	23,500
	二九師	劉			
六 軍	軍部	管			
	八二師	管			
	八四師	陳	30,000	2,000	22,000
九 軍	軍部	范			
	九一師	范			
	九二師	范			
十三軍	軍部	范			
	九三師	范	30,000	5,500	23,500
	九四師	范			
五 三軍	軍部	范			
	九五師	范			
	九六師	范			

北朝鮮人民委員會外務局

SHIPPING ADVICE # 2006
 BOX # ~~101~~ Box 11
 ITEM # 36 ~~101~~

Batch No. 189
 Item # 112

15675